

COLUMN
コラム

なぜ若者は結婚しない・できないのか？

2007年における平均初婚年齢は、男性で30.1歳、女性で28.3歳と、第2次ベビーブーム時と比べ、男性で3.1歳、女性で3.6歳上昇している。また、生涯未婚率は、男性15.96%、女性は7.25%であり、特に男性は、この30年の間に約8倍となっている。少子化の要因である晩婚化・未婚化の背景や要因分析などを行うため、「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」第1回会合（2009（平成21）年2月10日）では、「恋愛・結婚」をテーマに有識者からのヒアリングや議論が行われた。

若者が結婚しない、できない背景として、若い女性の専業主婦志向が近年高まっている一方で女性が男性に求める収入と実際に得る収入にかい離があることが指摘されている。

近年の調査においては、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と思っている20代女性は約4割となっているなど、依然として性役割分業意識が高い。一方で、未婚女性が求める男性の収入と未婚男性の収入を比較すると、東京においては、25～34歳の未婚女性の約7割が男性に400万円以上の収入を求め

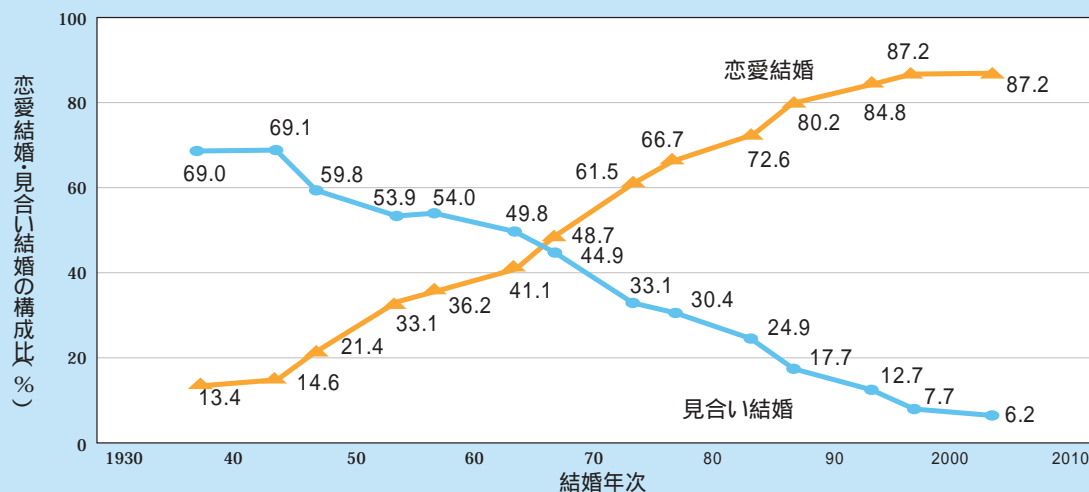
ながらも、25～34歳の未婚男性の約8割の年収は、400万円以下となっており、両者の間に大きなかい離がみられる。

経済・社会環境の変化を踏まえ、今後は、現在の男女の性役割分業意識の変革と様々な分業形態の推進、若者の生活基盤の安定、就業形態にかかわらずすべての働く男女を対象とした仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進などの必要性が指摘されている。

また、かつては男女交際があまり活発ではないものの、ある程度の年齢となると職場や親戚による斡旋により結婚候補となる異性に会える機会が多かったが、現在では男女の交際機会の増大・自由化によりいわゆる『もてる人ともてない人の二極化』が進んでいること、結婚のメリットの相対的な低下などが背景にあるといった指摘もある。

このため、近年では若者の結婚を支援するために、若者の出会いの創出、男女のコミュニケーション力やライフデザインを支援する活動などの必要性が指摘されている。

第1-1-13図 結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚構成の割合



資料：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」